

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育型児童デイぼらの樹東住吉		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士、保育士、児童指導員、など多職種による支援体制が整っており、チームで子どもを支援している。	定期的にケース会議を行い、情報共有と意見交換を徹底して支援の質を高めている。	外部研修や勉強会への参加を奨励し、スタッフのスキルアップと新しい知見の導入を継続していく。
2	児童の発達段階や特性に応じた、個別支援計画に基づく柔軟な支援ができています。	アセスメントや日々の記録を丁寧に行い、小さな変化も見逃さず対応している。	保護者様との面談を増やし、家庭と連携した支援にさらに力を入れる予定。
3	運動療育、SST、季節の行事、制作活動、実験など、多様な活動で児童の興味を引き出している。	月ごとに活動をバランスよく取り入れ児童が楽しみながらも成長できるよう工夫している。	子どもや保護者様の意見も取り入れた活動づくりを行い、より主体的な参加を促す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎可能な範囲が限られており、希望に十分に答えられない場合がある。	送迎ルートの見直しや、同乗者による安全確認を徹底している。	スタッフの増員や車両の追加など、送迎体制の拡充を検討中。
2	紙ベースの記録管理が中心で、情報共有や効率面に課題がある。	フォーマットを統一し、誰が見ても分かりやすい記録を心がけている。	タブレットの導入やクラウド管理など、ICT活用による業務効率化を進める予定。
3	日々の連絡帳以外で、保護者様と直接話す機会が少ない。	送迎時に短い対話を心がけ、連絡帳でも丁寧なフィードバックを行っている。	保護者様会・個別面談・イベントへの招待などを増やし、より双方向の関係を築いていく。